

平成 10 年 度

# 教育研究員研究報告書

|     |
|-----|
| 生 活 |
|-----|

東京都教育委員会

平成10年度

教育研究員（生活）名簿

| 地区名            |                | 学校名   |   |  | 氏名     |  |  |
|----------------|----------------|-------|---|--|--------|--|--|
| 江品大世中板練葛江三調府立多 | 東川田谷野橋馬飾川鷹布中川摩 | 豊洲小   | 小 |  | 長岡美恵子  |  |  |
|                |                | 宮前小   | 小 |  | 荒井章子   |  |  |
|                |                | 中富小   | 小 |  | ○石川由美子 |  |  |
|                |                | 用賀小   | 小 |  | 木村久子   |  |  |
|                |                | 武蔵台小  | 小 |  | 浅見登志子  |  |  |
|                |                | 板橋第十小 | 小 |  | 尾上隆一   |  |  |
|                |                | 大泉第一小 | 小 |  | 友邊優美子  |  |  |
|                |                | 西小菅小  | 小 |  | 桑名淑子   |  |  |
|                |                | 篠崎小   | 小 |  | 小杉直美   |  |  |
|                |                | 第七小   | 小 |  | 加藤毅    |  |  |
|                |                | 柏野小   | 小 |  | 熊澤敦子   |  |  |
|                |                | 府中第四小 | 小 |  | ○小林芳子  |  |  |
|                |                | 第九小   | 小 |  | ◎鈴木茂子  |  |  |
|                |                | 西落合小  | 小 |  | 八木美香   |  |  |

◎ 世話人      ○ 副世話人

担当 教育庁指導部初等教育指導課 指導主事 堀 竹 充

# 目 次

|                                              |    |
|----------------------------------------------|----|
| I 研究主題について .....                             | 2  |
| 「人とのかかわりを通して気付きが深まる活動の工夫」<br>研究主題設定の理由 ..... | 2  |
| II 研究の構想 .....                               | 4  |
| III 研究の方法と内容 .....                           | 5  |
| 1. 研究の方法 .....                               | 5  |
| 2. 研究の内容 .....                               | 5  |
| IV 実践事例 .....                                | 12 |
| 1. 第1学年 「家でもがんばるぞ！」 .....                    | 12 |
| 2. 第2学年 「図書館へ行こう！」 .....                     | 16 |
| 3. 第2学年 「動物園に行こう！」 .....                     | 20 |
| V 研究の成果と今後の課題 .....                          | 24 |

## 〈概 要〉

気付きを深めるためには、人とのかかわりが大切ではないかと考え、人とのかかわりに着目した学習活動を工夫した。また、その活動において、人とのかかわりに関する支援を工夫し、かかわりと気付きの深まりを見取り、指導に生かしていくこととした。

これらのことをもとに、実践授業を通して、かかわり合って気付きを深める学習活動について考察した。

その結果、かかわることを楽しみ、かかわりながら気付きを深めていくための学習活動や支援の工夫が明らかとなった。

## I 研究主題について

平成10年度 生活部会研究主題

人とのかかわりを通して気づきが深まる活動の工夫

### 研究主題設定の理由

#### 〈児童の実態から〉

子ども気づきは、多様な姿を持っている。

クラスで野菜を育てていた。A子は畑に行き一人で草とりをしている。それを見たB子が、「どうして草をとってるの」と尋ねると、A子が、「草をとらないと野菜が育たないんだよ」と話した。B子はそれを聞いて、「そうか、私もやってみよう」と、一緒に草を抜いた。

子どもたちは、対象にかかわって様々なことに気付く。しかし、対象の存在に気付くだけでは気づきは深まったとは言えない。この事例のように、まわりの人と交流し、コミュニケーションをとる中で、自分なりの結論を出したり、納得して行動を起こしたりすることができるのである。

学校での子どもたちの活動の様子を見ていると、一人一人は子どもらしく素直で、興味をもったことに意欲をもって取り組んでいる。しかし、対象と出会っても、そこから気付いたことを他の人と交流させたり、課題を追究するために人とかかわろうとしたりすることが苦手な子どもも多い。また、放課後の子どもたちの生活の様子を見ていると、数人で一緒に遊んでいても、会話もなくゲームをするだけだったり、おもちゃでの一人遊びに熱中したりする子どもなど、かかわることに消極的な姿が見られる。

このように人とうまくかかわれない子どもが多くなってきているのは、①都市化の進行や核家族化などによる地域での人間関係の希薄化、②子どもたちの遊びや生活の変化による創造力や想像力、社会性、粘り強い追究力などの不十分な発達等が大きく影響していると考えられる。これらは、本来遊びの中で育っていくはずの力である。

また、生活科の学習での子どもたちの気づきには、「～があったよ」という事物・事象の存在に気付く段階で終わってしまうものや、気付いたことを自分の生活に生かそうとするもので、かなり個人差がある。教師から見て、活動の中でもっと友達や地域の人とかかわることができれば、もう一步活動を発展させたり、気づきを深められるのではないかとと思われることも多い。

今後、少子化で単学級の学校が増える傾向にある地域も多い。子どもたちを取り巻く人間関



係が希薄になっていく傾向は一層進んでいくと思われる。そこで、子どもたちが進んで人とのかかわりながら育っていける場を多くつくり出していくことは、子どもたちがよりよく生きていくために必要であると考える。

#### 〈生活科の課題から〉

子どもたちは、ある時は教師と友達の姿から、ある時は家族や地域の人とのふれあいから様々なことに気付きながら成長している。友達と協力し合って課題を解決する体験や、家族や地域の人と心を通わせ合う体験は、人とのかかわりを深めたいという意欲や自分とは違う存在を認め、受け入れる態度を育てる。また、体験を共有した人の考えや思いにふれることで自分とは違うものの見方や考え方があることを知り、気付きを深めることもできる。つまり、人とのかかわる体験の積み重ねは、子どもに人とのかかわろうとする意欲と、幅広い気付きを生み出すことにつながる。ところが、今までの生活科の取り組みを振り返ってみると、必ずしもこういった成果が十分得られていない状況がある。

その理由の一つとして、人とのかかわる活動に継続的な支援ができていないことがある。例えば、基地づくりの活動で、今まで友達の輪に入れなかった子どもが友達と一緒に活動できると、一応目標は達成したと考えがちである。しかし、その活動が終わった後、もし教師から何らかの働きかけがあれば、もっとその子とのかかわりを日常生活に広げられた可能性もある。また、町探検で、グループの子ども同士が協力して計画を立てられるよう支援しようとした時、適切な支援ができず、グループによっては活動が停滞してしまい、気付きの広がりや深まりが十分見られないで終わってしまうということもある。

第二には、気付きを深めるための指導の基本にかかわる問題である。具体的には、

- ・児童の気付きを十分に見取れていない。
- ・長期的な見通しをもった活動計画が立てられていない。
- ・活動させるにとどまっていて、気付きの重要性が意識されていない。
- ・個に対する継続的な支援が十分になされていない。

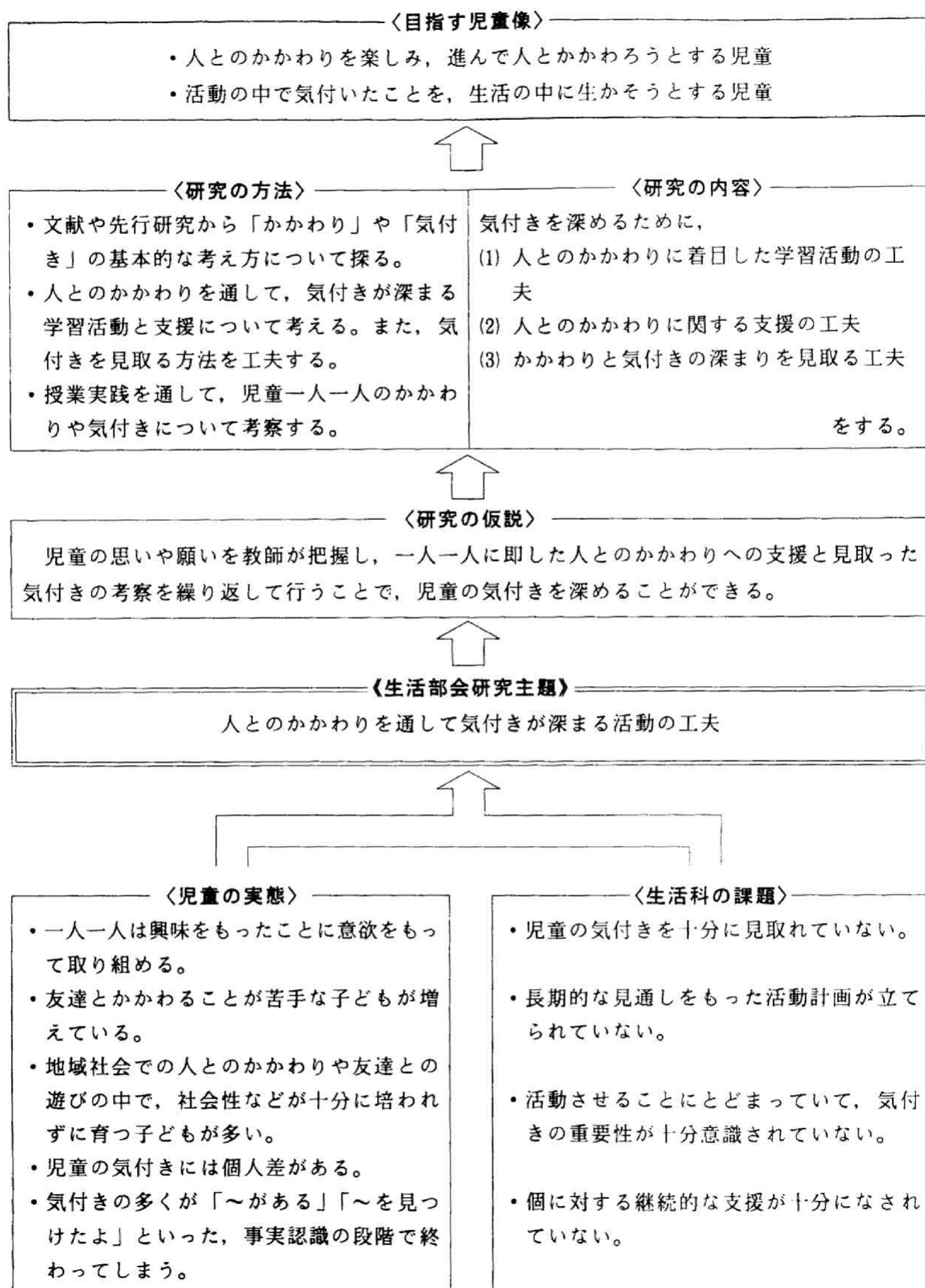
などである。

今、活動に対する子どもたちの関心や意欲を高める一方で、子どもたちが気付きを深め、子どもたちの生活にどのように返していくべきなのかが問われている。

私たちは、以上のような児童の実態とこれまでの指導の反省から、人とのかかわりを切り口にして生活科の活動を見直していくことが、子どもたちの気付きを深める支援のあり方を探っていく上で有効であると考える。さらに、本研究をすすめ、気付きを深めるよりよい活動づくりをしていくことが、子どもたちの人とのかかわる力を育てていくことになる考える。



## II 研究の構想



### Ⅲ 研究の方法と内容

#### 1 方 法

- (1) 文献や先行研究から「かかわり」や「気付き」についての基本的な考え方を探る。
- (2) 人とのかかわりを通して気付きが深まる学習活動と支援について考える。また、気付きを見取る方法を工夫する。
- (3) 授業実践を通して、児童一人一人のかかわりや気付きについて考察する。

#### 2 内 容

|             |                         |      |
|-------------|-------------------------|------|
| 気付きを深めるために、 | (1) 人とのかかわりに着目した学習活動の工夫 |      |
|             | (2) 人とのかかわりに関する支援の工夫    |      |
|             | (3) かかわりと気付きの深まりを見取る工夫  | をする。 |

##### (1) 人とのかかわりに着目した学習活動の工夫

学習過程を構成するときに、教師の思いとともに、児童がかかわりをもちたいという願いをもてるような学習活動を工夫する。また、児童が必要とする人とのかかわりを想定して、可能な限り、その人とのかかわりがもてるよう計画する。

「教えてもらいたい」「話がしたい」「わかったことを伝えたい」「一緒に楽しみたい」などの児童の願いと教師の願いが重なり合った時、児童にとって意味のあるかかわりが生まれてくる。また、人に着目した学習活動を計画する時には、児童が授業の中で、人とのようなかかわりをもち、人々がどのような役割をもって授業に参加してもらうかは、単元に応じて変わってくる。

そこで、人とのかかわりを考えるとき、児童の気付きを深めるためには以下のような視点で活動内容を構成する必要があると考える。

##### ○かかわる人

児童にとってまず身近な学校内の人とのかかわりを大切にする。さらに児童のまわりには様々な人が存在していることに気付くようにし、必要に応じてかかわりをもたせたい。

かかわる人がクラスの友達や家族のように身近な人ならすぐ活動に入っていけるが、あまり身近でない人とその場でかかわりをもって気付きを深めていくことは難しい。児童の活動を単なるふれあいに終わらせないために、事前に相手のことを知らせたり、かかわる回数を多くしたりすることが必要である。また、単元終了後も継続的なやりとりができるよう計画していくことも大切である。

クラスの友達、校内の人、異学年、家族、幼児、地域の人 など

##### ○かかわりの形態

児童が人とかかわるとき、児童によっては少人数の方がかかわりやすい場合やグループでかかわった方が活動しやすい場合があるなど、その場に応じて対応する人数を考えていく。

1対1 1対小数 1対グループ 1対全体 グループ対グループ など

## ○かかわりの役割

児童がかかわる人は様々であるが、状況に応じてその役割は変わってくる。場合によってはかかわる人にあらかじめその人の役割を説明し、児童に対応してもらうことが必要になる。

この役割は固定化されたものではなく、その場に応じて変化していくこともある。

- ◇教えてくれる人として……児童は自ら課題を見つけたとき、誰かに教えてもらおうとして人とかかわりを持ち、課題を解決することができる。
- ◇共に活動する仲間として…児童は人と一緒に活動することによって、お互いの考えを出し合い、認め合い高め合うことができ、気付きを深めることができる。
- ◇聞き手・観客として……児童は自分が調べたり分かったりしてまとめたことを誰かに聞いてもらい受けとめてもらうことにより、気付きを確かめたり、成就感を味わい意欲を増したりすることができる。
- ◇教えてあげる人として……児童は、「誰かに教えてあげる」という目的のために活動することで、対象に主体的にかかわり対象への気付きを深めることができる。また、自分ができるようになったことを誰かに教え、相手が受けとめてくれることで自分に自信を持ち自分への気付きを深めていくことができる。
- ◇その他……学習活動の中で、その場の状況で何らかの役割を果たしてくれる人がある。例えば、安全面を見てくれる保護者や、たまたま出合って児童を励ましてくれる人などである。

### 【例】

#### ◇教えてくれる人として

単元名『おてっだい大きくせん』

○上ばきあらいをする



こすってもよごれがおちないな。  
どうすればいいんだろう。

(気付きの深まり)

…… お母さん (教えてくれる人として)



こまかいところは歯ブラシ  
をつかうといいのよ。



そうか。(やってみる)  
ほんとうによくおちるね。  
おかあさんはいつもこうしてるんだね。

#### ◇共に活動する仲間として

単元名『お正月のあそびをしよう』

○こままわしをする



ひもがすぐほどけちゃう。  
Aくんもこまをまわしていたな。

(気付きの深まり)

…… Aくん (共に活動する仲間として)



(やってみせながら)  
ひもをまくときゆびで  
おさえるんだよ。



こういうふうにすればいいんだね。  
Aくん、ありがとう。  
Aくん、じょうずだね。

◇聞き手・観客として

单元名『町たんけん』

○たんけん発表会をする



(気付きの深まり)



どきどきするな。

こうえんにいったら  
きいろいちょうがいました。  
かわいそうだからにがしました。

…… クラスの友達 (聞き手・観客として)



ほかには虫はいま  
せんでしたか。

うすむらさき色の小さい  
ちょうがいました。

どきどきしたけど、  
はっぴょうできた。よかった。  
みんながちゃんと聞いてくれた。

◇教えてあげる人として

单元名『がっこうたんけん』

○家の人に学校をあんないする



(気付きの深まり)



おとうさんに教えるから、としょ  
しつがどこにあるかよく見よう。

ここだな。本がいっぱいあるんだ。  
うまく教えてあげられそうだ。

…… お父さん (教えてあげる人として)



ここが図書室か。本がずい  
ぶんたくさんあるね。どん  
な本を読んでいるの。よく  
案内できたね。すごいね。

じょうずに教えられた。  
おとうさんがほめてくれた。  
こんどかりた本を見せよう。

以上の「かかわる人」「かかわりの役割」を事前に想定し、児童の多様なかかわりが生まれその子なりの気付きが深まるよう活動案の中に位置付け、支援の視点を明確にもてるようにした。ただし、「かかわりの形態」については、一人一人その場に応じてかかわる人数が異なるので明記していない。

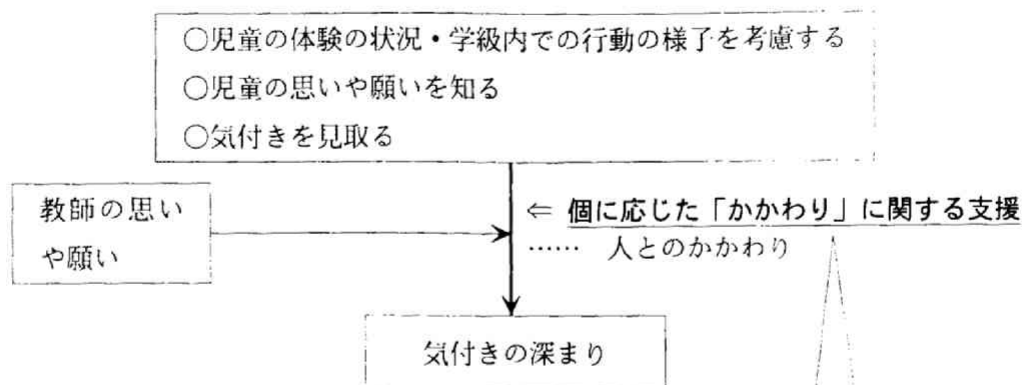
【例】单元「図書館に行こう!」の活動案

| 児童の活動                    |                            | ★=かかわる人, ( )=役割, △=支援, ◎=気付き  |
|--------------------------|----------------------------|-------------------------------|
|                          |                            | 予想される気付き                      |
| 永山図書館に行く計画を立てよう。(3)      |                            | ・自分たちで図書館に行こうという気持ちになって       |
| 多摩センター駅に行って調べる。(2)       |                            | ◎いろいろな人がいるんだな。<br>◎話しかけられやった! |
| ○多摩センター駅の人にお願ひする。        |                            | ◎切符はここで買うんだな。70円か。            |
| ○電車やバスについて調べる。           |                            | ◎Aちゃんはよく知っているな。               |
| 料金、発車時刻、所要時間、乗り場         |                            | ◎自分たちで行けそうだな。                 |
| ★駅で働く人<br>(教えてくれる人として)   | ★駅を利用している人<br>(教えてくれる人として) | ◎駅の人ってよく教えてくれるなあ。             |
| ★クラスの友達<br>(共に活動する仲間として) | お手伝いの保護者<br>(安全面を見てくれる)    | ◎Bくんは駅の人に質問したんだ。              |
| △駅で働く人と事前に打ち合わせをしておく。    | △きっかけを作るために一緒に活動する。        |                               |
|                          |                            | ・利用の仕方を調べようとしている。<br>(関・意・態)  |
|                          |                            | ・調べる方法に気付く。<br>(気)            |

## (2) 人とかかわりに関する支援の工夫

### ① (気づきを深めるために) 個に応じた人とかかわりに関する支援をする

一人一人の「思い・願い」を受けとめたり、「気づき」を見取ったりし、それをもとに「かかわり」の適切な支援をしていく。その際に、教師の思いや願いと合わせ、児童の行動の様子や体験の状況を考慮する。



#### ○友達とかかわりの場を

つくり出していく支援

##### 【例】単元名『お正月のあそびをしよう』

Aの願い「お店をはでにかざりたい。」  
教師の願い「自分の考えはあるが一人では難しいので誰かと組んで活動して欲しい。」



(気づきの深まり)

もっとお店をはでにしたい。

T支援 Bちゃんと相談したらどうかな。

…… Bちゃん(共に活動する仲間として)



わたし、大やすうりのお店見たことあるからいっしょに作ろう。



Cちゃんとやったらカラフルになった。

#### ○教えてくれる存在に気付くような支援

##### 【例】単元名『のり物にのって出かけよう』

Cの願い「子ども料金を知りたい。」  
教師の願い「勇気を出して駅員さんに聞いてほしい。」



(気づきの深まり)

お金は120円って書いてある。



それは子どもじゃないよ。

子どもはいくらなんだろう。

T支援 ここで見ているから駅員さんに聞いてごらん。

子どものお金はいくらですか。

…… 駅員さん(教えてくれる人として)



子どもの料金は大人の半分だよ。あそこにそのことが書いてあるよ。



ありがとうございます。じゃあ、60円だ。かんばんをよく見るとわかるんだね。

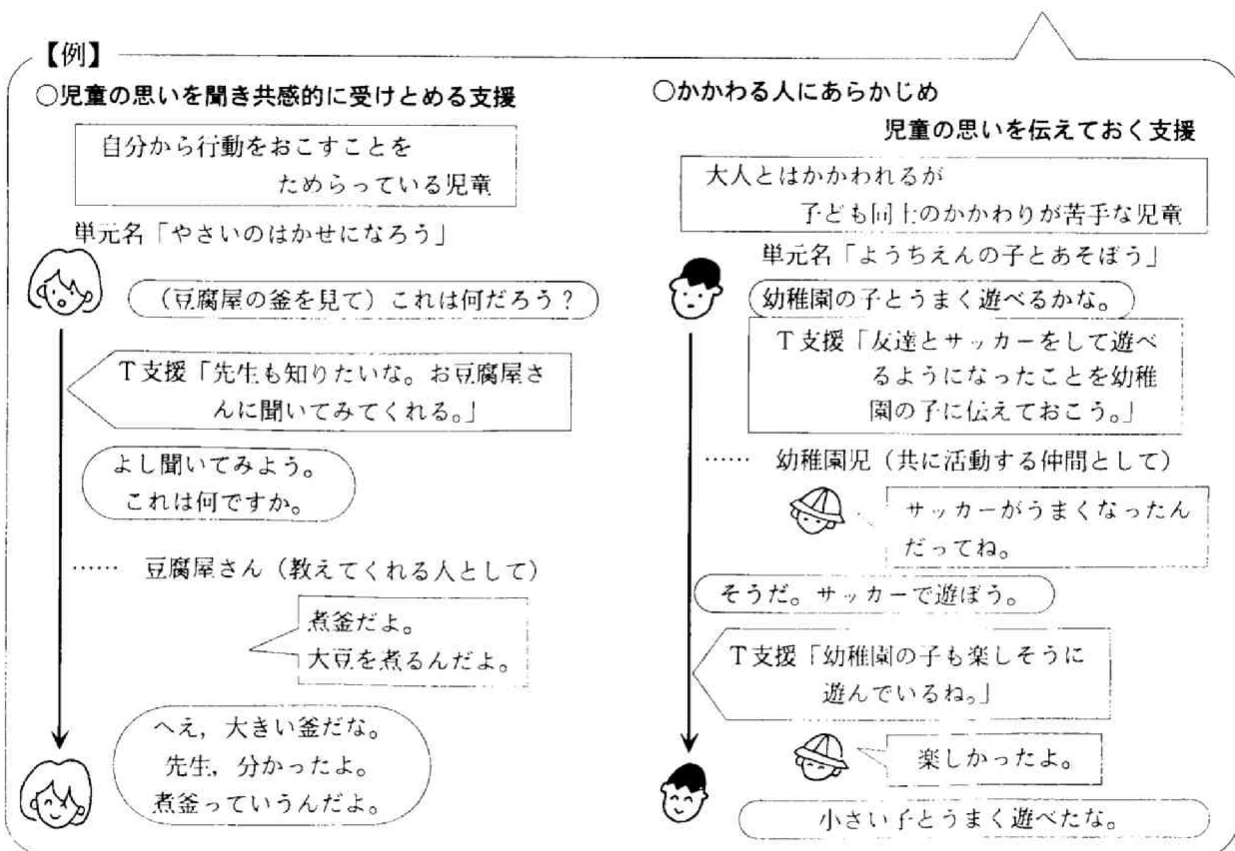
## ★人とのかかわり方への技能面での支援

人と共感的にかかわることでその人から様々なことを学び、気付きを深めていくことができる。と考えるが、児童によっては、人とのかかわり方（技能的なこと）が分からなかったり体験が少ないためにうまくいかない場合がある。その場合、かかわり方の技能面での支援が必要になってくる。

クラスの友達とはうまくかかわれるのに、外部の人には勇気が出なくて、自分からはかかわることができないというように、児童のかかわり方はかかわる相手によって変わってくる。

したがって、児童の日常の行動の様子や体験、性格などを考慮に入れ、児童のかかわりの状況を予想し、自分からかかわりがもてるよう支援していくこととした。

| 予想される児童のかかわりの状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 教師の支援                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>【例】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黙ってしまい、聞かれても答えられない。</li> <li>・声をかけられても恥ずかしがって動けない。</li> <li>・自分から話しかけられない。</li> <li>・自分から行動をおこすことをためらってしまう。</li> <li>・相手に誘われれば行動できる。</li> <li>・相手に言われたことはできる。</li> <li>・誘ってくれる相手によっては、それに応じて行動できる。</li> <li>・自分から相手に対して声をかけたり、一緒に行動したりできる。</li> <li>・自分から必要な相手（その場にいる）を探して声をかけたり、協力して活動したりできる。</li> <li>・自分から必要な相手を探して、その場にいなければ誰かに探しもらって、自分の課題を解決できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の思いを聞き共感的に受けとめる。</li> <li>○友達と一緒に行動するよう促す。</li> <li>○児童の思いをかかわりに伝える。</li> <li>○共に行動しかかわりを促す。</li> <li>○かかわる相手を一緒に探す。</li> <li>○かかわる人にあらかじめ児童の思いを伝えておく。</li> <li>○かかわりの場を繰り返し設定する。</li> <li>○かかわり方を共に考える。</li> <li>○見守る。</li> </ul> |



# ★個に応じた支援表の作成

児童の願いに対して適切な支援ができるように一覧表を作成する。

## 【例】単元「図書館へ行こう！」の支援表

| 単元で目指す児童像 「様々な人とかわりながら、友達と仲良く図書館へ行こうとする子」 |                                 |                          |         |
|-------------------------------------------|---------------------------------|--------------------------|---------|
|                                           | 児 童 の 願 い                       | 教 師 の 支 援                | 活 動 内 容 |
| A<br>児                                    | 何分かかるか調べたい。<br>電車の時刻を調べたい。      | メモを見ながら質問できるように励ます。      |         |
| B<br>児                                    | 電車の時刻を調べたい。自分のグループだけ小田急を利用するんだ! | 友達の質問もメモするように言葉かけをする。    |         |
| C<br>児                                    | バスの値段を調べたい。電車は何番線か調べたい。         | 他のグループと協力できるように目を向けさせる。  |         |
| D<br>児                                    | バスの値段を調べたい。電車は何番線か調べたい。         | 質問のきっかけを作る。次につながるようにほめる。 |         |
| E<br>児                                    | 早く駅に行ってみたい。時間を調べたい。             | 見守る。友達と一緒に聞きにいったことをほめる。  |         |

## ②（気づきを深めるために）児童相互の学び合いが活性化するように支援をする

活動を進めながら、児童相互のかかわりが生まれやすくなるような環境構成を工夫し、情報交換できる場を設けて、互いに刺激を受けて学び合ったり、気づきを深めたりすることができるようにする。

### ○個の思いや願いをお互いに分かり合えるよう工夫する

児童一人一人の思いや願いを他の児童が受けとめ、活動に生かしたり、グループを作るときに参考にしたりするよう掲示物を工夫し、発表の場などを設ける。

### ○互いのよさや、活動において工夫した点を認め合えるよう工夫する

活動中に見取ったり感じたりした友達のよい点や作品のよさ、工夫などをカードに書いたり、発表し合ったりする場を設け全体に広げる。

### ○児童相互の助け合いの場を設定する

活動中に生じた問題点が解決できるように、カードを準備して掲示したり、口頭で伝え合う場を設けたりする。

### (3) かかわりと気付きの深まりを見取る工夫

#### ① 目的

児童の気付きを深める適切な支援を行うために、活動の中のどのようなかかわりからどのような気付きが生まれたのか、どのように気付きが深まったのかを見取り、支援が適切であったかを評価し、事後の支援に生かす。

#### ② 方法

教師の観察による支援表、児童自身の評価カード、保護者からの情報等を活用して見取る。また、単元を通しての見取り表を作成し、かかわりと気付きの深まりの様子を見取る。

《例》「あきのスペシャルビッグまつり」A児の見取り

#### 支援表の活用

- ・教師の支援計画が気付きに有効であったかを見取る。

第一次の支援表

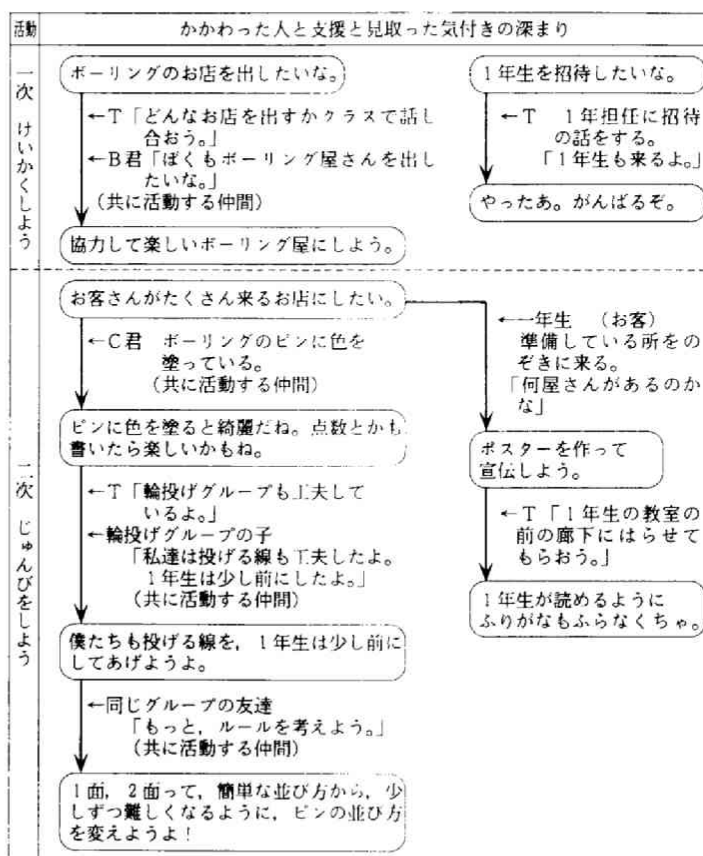
|    | 児童の願い                        | 教師の支援                                  | 活動内容           |
|----|------------------------------|----------------------------------------|----------------|
| A児 | ボーリングのお店を出したい。<br>1年生を招待したい。 | →友達とボーリングの店を出すことに決定。<br>→1年担任へ招待の話をする。 | →1年が来ることを知り喜ぶ。 |

第二次の支援表

|    | 児童の願い             | 教師の支援                                                       | 活動内容                                            |
|----|-------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| A児 | お客さんがたくさん来る店にしたい。 | →他のグループの工夫に気付くことができるようにする。<br>ポスターコーナーを設置。<br>学年で話し合う場を設ける。 | →1年生向けのルールを工夫する。<br>→ポスターをかく。<br>→1組の子とゲーム係になる。 |

#### 見取り表

- ・どのようなかかわりと支援が、気付きを深めるために有効だったのかを見取る。



#### 評価カード・保護者からの感想

- ・教師の見取れなかった気付きを拾ったり、支援が有効だったかを見取る。

##### 評価カードより

ボーリングの1めんはかんたんにして、  
2めんはすこしむずかしくしました。こんど  
ポスターをかいてせんでんしたい。

##### 保護者からの感想より

優に一年生にやり方を教えている姿に感動しました。  
お兄さんらしくなったねと家でもお話ししました。

◎見取り⇒支援⇒見取り⇒支援を繰り返すことで、児童の気付きを深めることができる。

## IV 実践事例

### 第1学年

#### 単元名『家でもがんばるぞ！』

#### 1 単元のねらい

- 家の仕事に興味をもち、自分のできることを積極的にしようとする。
- いろいろな手伝いをして、わかったことや思ったことを自分なりに表現する。
- 手伝いの体験を通して、自分も家族の一員であり、家族が協力して生活していることに気付く。

#### 2 研究主題との関連

#### 児童の思いや願い

↓ 気付きを深めるために

##### (1) 人とかかわりに着目した学習活動の工夫

- 教室そうじ（6年生とかかわり）やモルモットの世話（2年生とかかわり）など、学校の中の自分たちの仕事を、家庭生活の仕事を考えるきっかけにする。
- 児童同士がそれぞれの手伝いについて知り、自他のよさに気付いたり、新しい意欲をもって活動に取り組めるような発表の場を設ける。また、実際に体験できるようにもする。
- 各家庭と連携をとり、児童が家庭でそれぞれの手伝いに継続的に取り組めるようにする。
- 学校で手伝いの共通体験の場を設け、楽しさや大変さ、工夫などを一緒に味わったり考えたりできるようにする。

##### (2) 人とかかわりに関する支援の工夫

- 同じような手伝いの児童同士で、どんなやり方をしているのか、どんなところを頑張っているのかなど、朝の会などでも情報交換できるようにする。うまくかかわれない子には、「おてつだいカード」をいつでも、だれでも見られるように掲示しておく。
- 色別の感想カード（よかったよカード、こうしたらカード）を使って、自分の感想が必ず相手に伝えられるようにする。
- 家族にほめてもらったり、認めてもらったりして手伝いをする意欲が持続していくよう、各家庭に協力を依頼する。

##### (3) かかわりと気付きの深まりを見取る工夫

- 自己評価カードなどから、児童の思いや願いをつかむようにする。
- 「おてつだいカード」を通して、気付きやその深まりを見取るようにする。

↓

#### 気付きの深まり

### 3 活動計画（12時間扱い）

〈活動のきっかけ〉

① 6年生のそうじ名人にやり方を教わろう。

② 2年生からモルモットの赤ちゃんをもらい世話しよう。

学校での自分たちの“仕事”として、責任をもって頑張ろう。



- ・ほかに自分たちの仕事として、何をしているかな。
- ・家ではどうかな。友だちはどうかな。

| 児童の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | ★=かかわる人、( )=役割、△=支援、◎=気付き              | 予想される気付き                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 評価                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>どんなお手伝いがあるのかな（４）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家での自分の“仕事”として手伝いに興味をもち、自分のやっていることややりたいことをカードにかき発表する。</li> <li>○ みんなでやってみたいことを１～２つ選び、共通体験して家での手伝いに意欲をもつ。</li> <li>○ いろいろな手伝いが経験できるように自分なりの手伝い計画を考え決める。 ★ <b>クラスの友達</b>（共に活動する仲間として）</li> </ul> <p>△ 友達の発表に興味をもって聞いたり見たりできるような言葉かけをする。</p>                   |                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎これがやりたいな。</li> <li>◎◇◇くんは～をしているんだ。</li> <li>◎こんな手伝いもあるんだね。</li> <li>◎～はおもしろそうだな。</li> <li>◎どうやるのかな。</li> </ul>                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家での手伝いに興味や意欲がもてたか。（関・意・態）</li> <li>・知らなかった手伝いや、友達の手伝いに気付いたか。（気）</li> <li>・楽しくすすんで共通体験していたか。（関・意・態）</li> <li>・自分なりに手伝いの計画を考え、決めていたか。（思・表）</li> </ul>                                    |
| <p>家でもがんばるぞ！Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭で各自実行する。</li> <li>○ いろいろ経験した中からもっとやりたいものやじょうずになりたいものを１つ選び、自分なりに工夫して実行していく。 ★ <b>保護者</b>（家庭で）（見守る、教えてくれる人として）</li> </ul> <p>△「おてつだいカード」をつけて、自分のやったことやじょうずになってきたことなどが分かるようにする。</p> <p>△ 実行中の様子や困っていることなどを、朝の会などで常時みんなに報告できるようにして、児童同士が情報交換したり助け合ったりできるようにする。</p> | <p>★ <b>クラスの友達</b>（聞き手、教えてくれる人として）</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎◇◇くんはがんばっているな。</li> <li>◎◇◇くんはやり方がじょうずだな。</li> <li>◎ぼくも頑張ろう。もっと続けよう。</li> <li>◎これはこうやったらいいのかな。やってみよう。</li> <li>◎◇◇くんが言ったことでわかったよ。できたよ。</li> <li>◎◇◇くんはお母さんに教えてうまくできるようになったんだね。</li> </ul>                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭で手伝いを頑張っているか。（関・意・態）</li> <li>・友達の頑張りやじょうずなところに気付いたか。（気）</li> <li>・自分のやったことや気付いたこと、困ったり教わったりしたことを、ノートや日記に書けたか。（思・表）</li> <li>・じょうずに手伝いできるように、工夫したり頑張って練習したりしているか。（関・意・態）</li> </ul> |
| <p>「腕自慢」大会を開こう（７）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ手伝いをしている子でグループを組み、大会の相談・準備をする。</li> <li>・必要なもの ・説明の仕方 ・演じ方 ・宣伝方法</li> <li>○ 「腕自慢」大会をする。</li> <li>・ポスターセッション形式で前半と後半に分かれ、発表と体験活動をする。 ★ <b>クラスの友達</b>（聞き手、教えてくれる人、共に活動する仲間として）</li> <li>★ <b>お手伝いの保護者</b>（安全面を見守る、教えてくれる人として）</li> </ul>                     |                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ぼくと◇◇くんは、同じお手伝いをしていた。</li> <li>◎必要なものはこれだ。</li> <li>◎こうやるとわかりやすい。</li> <li>◎◇◇くんはじょうず。すごいことに気付いている。</li> <li>◎ほめられてうれしい。</li> <li>◎自信をもって教えてあげられるよ。</li> <li>◎ぼくも役にたっているんだ。</li> <li>◎家族に喜んでもらってうれしい。</li> <li>◎家族のみんなもそれぞれの仕事をしているんだ。</li> <li>◎これからも頑張って続けるぞ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力して相談や準備をしていたか。（関・意・態）</li> <li>・必要なものや発表の仕方を考えたり、作ったりすることができたか。（思・表）</li> </ul>                                                                                                 |
| <p>△ 体験活動に必要なものを、各自用意できるようにする。</p> <p>△ 自他のよさに気付くような言葉かけをする。</p> <p>△ 色別カードを用意して、うまくかかわれない子でも、自分の感想を相手に伝えられるようにする。</p> <p>△ 包丁の使用には十分注意し、お手伝いの保護者に安全面を見もらうようにする。</p>                                                                                                                                                        |                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他のよさに気付くことができたか。（気）</li> <li>・自分の仕事に自信がもてたか。（関・意・態）</li> </ul>                                                                                                                        |
| <p>家でもがんばるぞ！Ⅱ（１）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今まで手伝いをしてきたことや気付いたことを振り返り、家族に手紙を書く。</li> <li>★ <b>家族（間接的に）</b>（気持ちを伝える相手として）</li> </ul> <p>△ 今後の意欲につながる言葉かけをする。</p>                                                                                                                                           |                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎これから頑張るぞ。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も手伝いを続けていこうと意欲がもてたか。（関・意・態）</li> </ul>                                                                                                                                               |

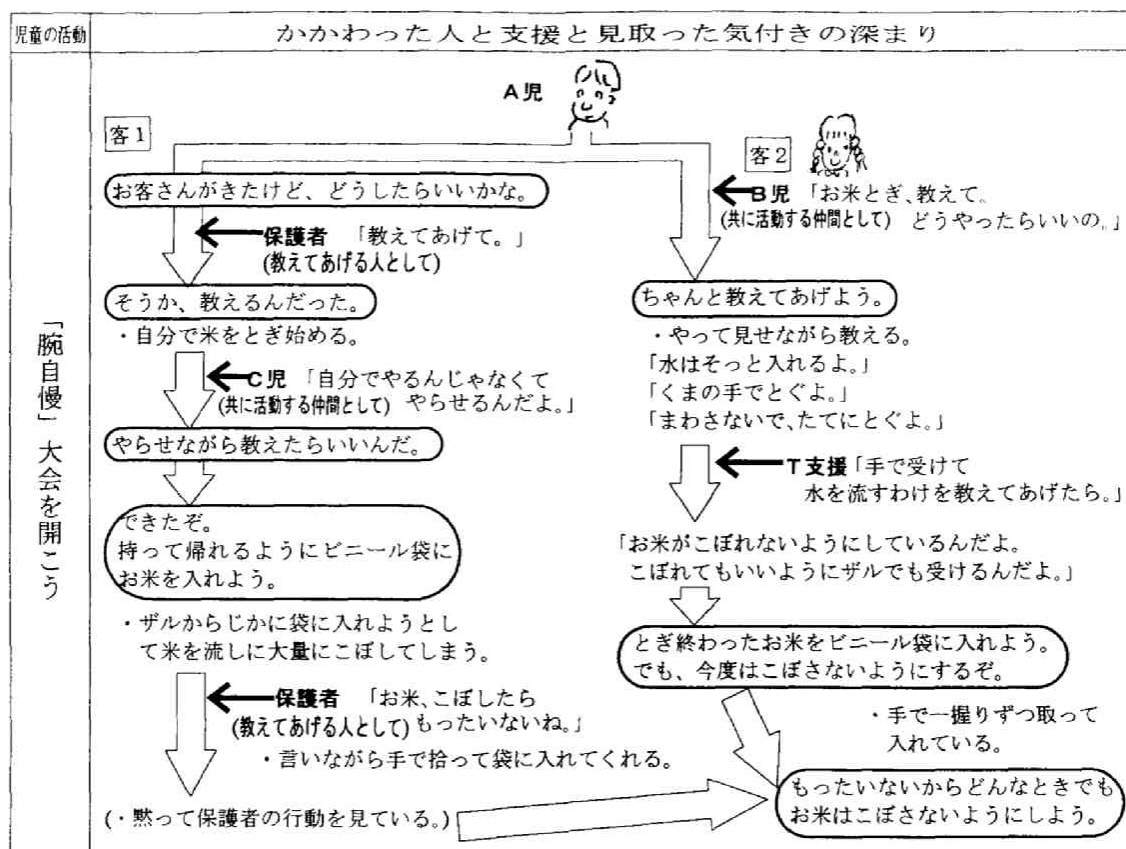
次単元への発展

・「できるようになったこと」

日常化

- ・そうじやモルモットの世話、当番や係の仕事を頑張る。
- ・家庭でやっていた手伝いを自分の“仕事”として責任をもってやっていくことができる。
- ・自分でできることは、すすんでやろうとするようになる。

#### 4 人とかかわりによる児童の気づきの深まり

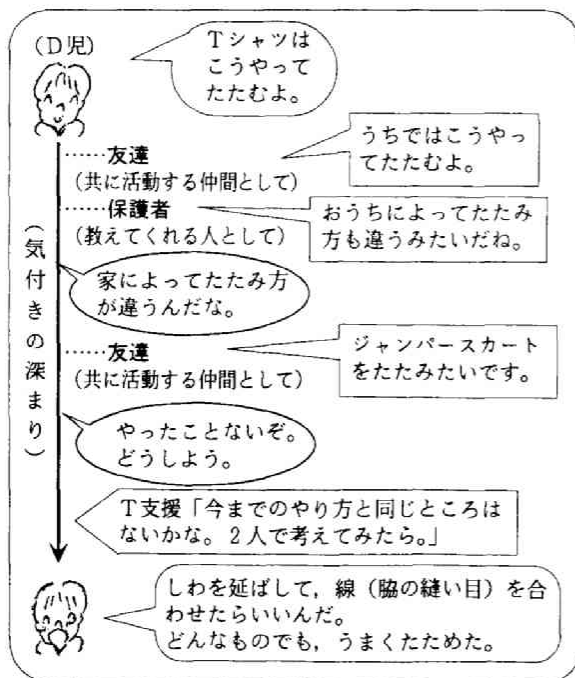


はじめA児は、コーナーに友達(お客さん)が来てもしらういかわからない様子であった。お手伝いの保護者に促されたり、同じ担当のC児に言われたことで、初めてお客さんへの対応に気付いたようである。また、A児は家庭での体験から、「水を流すときに、お米を流さないようにしよう。」ということに気付いていたが、客1のときにこぼしてしまった。そのときのお手伝いの保護者の言葉と行動から、「お米をこぼしたらもったいないので、

どんなときでもこぼさないようにしよう。」と気づきを深めることができた。

さらに、B児に教える形でかかわることで、体験から得た米のとき方の工夫をB児にやって見せてあげることができた。授業後のカードに、「Bちゃんが水を流すのがうまかった。」と記入していたが、初めは客への対応にとまどっていたA児が、B児のよさにも気付くことができた。

また、左図はD児(せんたくものたたみ)の気づきである。友達とかかわりや保護者、教師の一言によって、それぞれの家にそれぞれのたたみ方があることや、今までにたたんだことのないものでも、同じようにやればうまいたためることに気付いて自信をもつことができた。



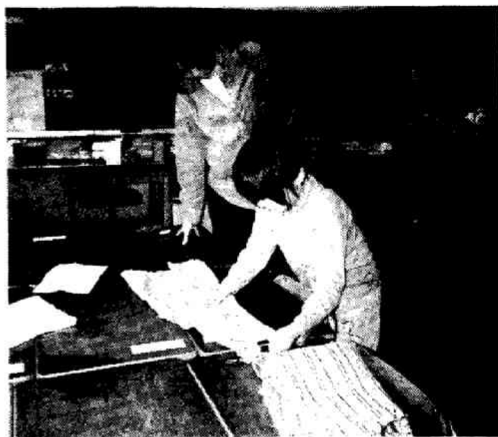
## 5 活動を終えて

気付きを深めるための学習活動の工夫として、共通体験で「くつ下あらい」を行った。活動の中で、児童は友達の持ってきた洗濯板を借りて自分も洗ってみたり、「洗濯機のように回すときれいになるよ。」という友達の気付きを聞いて確かめてみたりして、その気付きをまた別の友達に話していた。これらは共通体験ならではのことで、みんなで気付きを深め、手伝いに対する意欲をもつことができた。

|                | きづいたこと、おそわったこと                                  | おかあさんから                                                                              |
|----------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 17<br>日<br>(土) | 4日たったのにおこめを<br>まいてしまったからやめた                     | おこめの水というおこめは<br>かき混ぜて、おこめに<br>おこめをいれ、おこめに<br>おこめをいれ、おこめに<br>おこめをいれ、おこめに              |
| 18<br>日<br>(日) | すいはんきのそこを<br>いていたらおこめをかいてしまっ<br>た               | すいはんきのまわり<br>をふくとき、たか<br>さなによりにきをつけて<br>ね。                                           |
| 20<br>日<br>(火) | すいはんきのそこをふくときはかみ<br>をしたにあいさつをうえにすいはんきを<br>おきます。 | すいはんきのための<br>みぞとこまをはなけ<br>にすいはんきをうえに<br>うえにかき混ぜるため                                   |
| 22<br>日<br>(木) | (3)の水をとうろくにす<br>わけは三割についている<br>ところからかき取るため。     | すいはんきに水をたら<br>すようにして、すいはん<br>きに水をたらすようにして、<br>すいはんきに水をたらすようにして、<br>すいはんきに水をたらすようにして、 |

手伝いを実際に行うのは家庭が中心となる。左は前ページのA児が、家庭で母親とかかわりながらお米とぎの体験を積んでいったときのカードであるが、米をこぼさないように自分なりに工夫した気付きの変化がよくわかる。これ以外にも、といだ米を浸しておくこと・米の銘柄によって値段が違うことなど、実にいろいろなことに気付いていた。また、母親に感謝されたり、家族にほめてもらったりすることで、意欲的・継続

的に活動をすすめていくことができた。学校では、個々の気付きを全体に広めるよう発表の場を設けるなどして支援した。しかし、児童同士で気付きを伝え合うことの難しさも感じた。腕自慢大会の場面では、ただやって見せるだけになってしまうなど、気付きを言葉で表現することが難しかった。日常から児童に「話す」ことの指導をしていくとともに、教師や保護者が適切にかかわっていくことが児童の気付きを引き出し、深め広げていくために必要である。活動の中では保護者に「安全面の見守りと教えてくれる人」としてかかわりを依頼したが、「評価してくれる人」としてもかかわってもらおうと、活動の目的がより明確になり、児童の意欲も増すと考えられた。その際、保護者自身にもかかわりの目的と役割をはっきり認識してもらうよう連絡を取り合うことが大切であるとする。さらに、発表のためにみんなに伝えたいことを考えることで自分の気付きを深め、聞き手も発表者の気付きを自分のものにすることができるので、発表者が自分の仕事について、みんなの前でやって見せたり説明したりする場をきちんと設定して活動に入ることも必要だった。また、今回は数種類の評価カードを使用した。「おてつだいカード」は毎日記入し掲示したが、児童は互いにカードを見て話し合ったり、腕自慢大会の計画を立てるのに利用したりして、かかわりながら気付きを深め広げていった。色別の「よかったよカード」「こうしたらカード」も使用したが、友達の反応（評価）がすぐわかる、うまく書けない児童も自分の気持ちは伝えることができるという点で有効であった。



1 単元のねらい

- 図書館へ行くために様々な人とかかわりながら行き方を考えようとする。
- 自分の考えを出し合って、友達と仲良く活動しようとする。
- 乗り物や駅で、安全に気を付けながら正しく利用できる。

2 研究主題との関連

児 童 の 思 い や 願 い

↓ 気づきを深めるために

(1) 人とかかわりに着目した学習活動の工夫

- 友達と話し合いながら、交通機関を選択できるようにする。
- 駅では、駅で働く人に通常通りの業務をお願いし、実際に利用する場で調べる活動ができるようにする。
- 調べたことを基にして友達と一緒に電車やバスを利用するようにする。

(2) 人とかかわりに関する支援の工夫

- 友達同士が意見や情報を交換できる場を大切にする。
- 調べ活動の時、通常通りの駅での体験を通し、人とかかわり方について自分なりに考えられるようにする。

(3) かかわりと気づきの深まりを見取る工夫

- 毎時間の活動の様子の記録や自己評価カードから児童の思いや願いをつかむようにする。
- 人とかかわりがあった後の児童の気づきやその気づきの変容を見取り、個に応じた支援に生かす。

↓

気 付 き の 深 ま り

### 3 活動計画 (8時間扱い)

活動のきっかけ

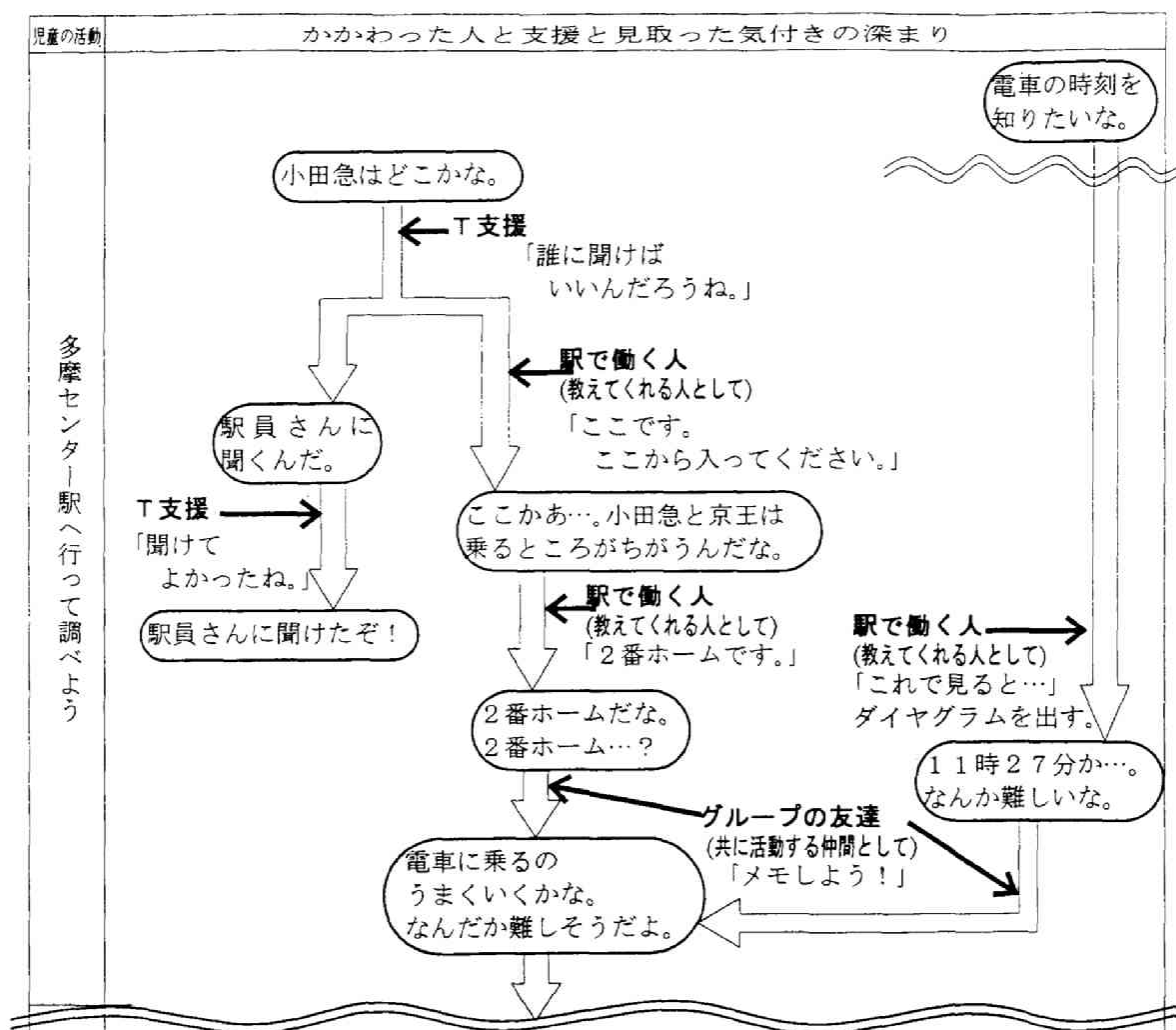


本単元

- ・自分たちではかの所も行ってみたい。(生活科:「町たんけん」)
- ・いろいろな本を読んだんだね。(国語:夏休みの課題「本を紹介しよう～読書カードから～」)

| 児童の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  | ★=かかわる人, ( )=役割, △=支援, ◎=気付き                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  | 予想される気付き                                                                                                                                     |
| <p>永山図書館に行く計画を立てよう。(3)</p> <p>○ どうやって行くかを考える。</p> <p>○ 家の人などからどうやったら行けるか聞いて、調べたことを掲示板で情報交換する。</p> <p>○ 質問を自分なりに準備し、友達と場を想定して練習する。</p> <p>★ <u>クラスの友達</u><br/>(共に活動する仲間として)</p> <p>△駅で働く人と事前に打ち合わせをしておく。</p> <p>△友達の姿を見ることができるよう言葉をかける。</p>                                                                                     |  | <p>◎電車で行こう。</p> <p>◎ぼくはバスにしようかな。</p> <p>◎「失礼します。」を言うんだな。</p>                                                                                 |
| <p>多摩センター駅に行って調べる。(2)</p> <p>○ 電車やバスについて調べる。</p> <p>料金、発車時刻、所要時間、乗り場</p> <p>★ <u>駅で働く人</u>      ★ <u>駅を利用している人</u><br/>(教えてくれる人として)      (教えてくれる人として)</p> <p>★ <u>クラスの友達</u>      ★ <u>お手伝いの保護者</u><br/>(共に活動する仲間として)      (安全面を見てくれる人として)</p> <p>△きっかけを作るために一緒に活動する。</p> <p>△安全に活動できるように事前に考える場を設定する。</p>                     |  | <p>◎いろいろな人がいるんだな。</p> <p>◎切符はここで買うんだな。70円か。</p> <p>◎Aちゃんはよく知っているな。</p> <p>◎自分たちで行けそうだな。</p> <p>◎駅の人ってよく教えてくれるなあ。</p> <p>◎Bくんは駅の人に質問したんだ。</p> |
| <p>行く準備をする。(1)</p> <p>○ 調べてきたことを情報交換する。</p> <p>○ しおり作りをする。</p> <p>★ <u>クラスの友達</u><br/>(共に活動する仲間として)</p> <p>△気付きを価値付けるための言葉をかける。</p>                                                                                                                                                                                            |  | <p>◎Cさん詳しいな。</p> <p>◎みんなで行くのが楽しみだな。</p>                                                                                                      |
| <p>永山図書館に行こう。(2)</p> <p>○ 正しい利用の仕方について確認する。</p> <p>○ 電車やバスに乗って行く。</p> <p>○ 電車やバスに乗って帰る。</p> <p>△安全に活動できるように事前に考える場を設定する。</p> <p>★ <u>駅で働く人</u>      ★ <u>駅を利用している人</u><br/>(教えてくれる人として)      (教えてくれる人として)</p> <p>★ <u>クラスの友達</u>      ★ <u>お手伝いの保護者</u><br/>(共に活動する仲間として)      (安全面を見てくれる人として)</p> <p>△友達同士助け合えるための言葉をかける。</p> |  | <p>◎駅の人に確かめたからうまくいったよ。</p> <p>◎Dちゃんが教えてくれたよ。ああ、よかった。</p> <p>◎Eくんのおうちの人がほめてくれたよ。</p> <p>◎みんなで行けたよ。</p>                                        |
| <p>次単元へ発展</p> <p>「遊びの広場において」</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               |  | <p>日常化</p>                                                                                                                                   |
| <p>・いろいろな人と仲良くなりたいな。</p> <p>・今度は誰かの役に立ちたいな。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                |  | <p>・公共の乗り物の利用の仕方が分かる。</p> <p>・分からないことに対して、自分なりの解決方法を考えようとする。</p> <p>・グループ活動で友達の存在を意識する。</p>                                                  |

#### 4 人のかかわりによる児童の気づきの深まり (A児)



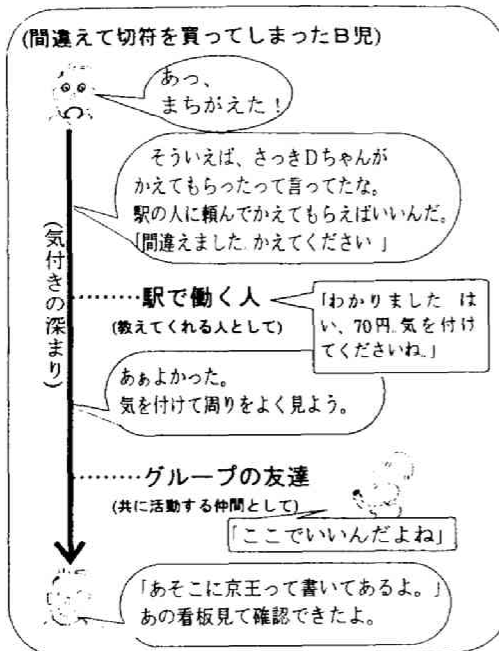
A児は、主に、共に活動する友達とのかかわりの中で気づきを深めていった。グループの友達や担任からの支援を受けて、普段あまり接することのない駅で働く人とも進んでかかわろうとした。上図は、行きに利用する京王線についてグループの友達と一緒に構内を調べた後、帰りに利用する小田急線を調べたときの気づきについて表したものである。電車の利用についての気づきだけでなく、駅で働く人に必要なことを聞くことの大切さに気付いていく姿が見取れた。



多摩センター駅で調べよう の活動では、駅で働く人とかかわりをもてたことによる充実感があったものの、答えてもらった内容が自分にとって難しかった。このことから、A児は、子どもたちだけで初めて電車を利用することは難しいという気づきの深まりが見られた。この後この気づきの深まりがもっと調べようという次の活動へつながった。

## 5 活動を終えて

図書館へ「出かける」という大きな目標のもとに学習活動を組み立てた。子どもたちは「図書館へ行きたい。」という思いや願いを実現させるために意欲的に活動を進めることができた。利用する電車やバスについて調べる活動の中で、交通機関で働く人とのかかわりや一緒に活動

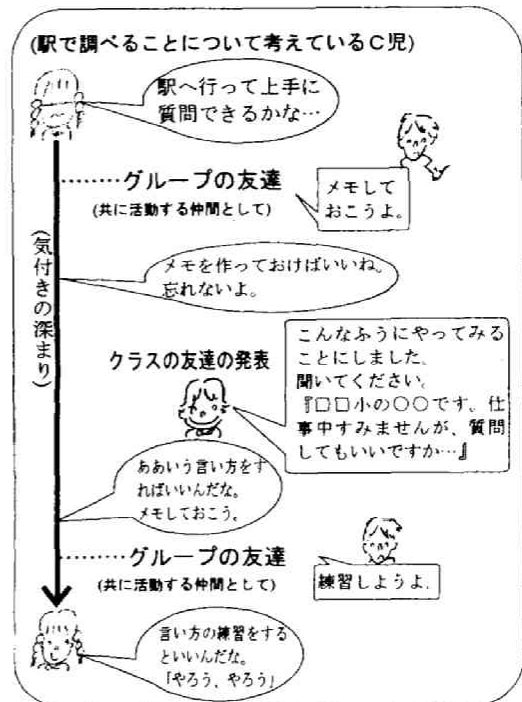


する友達とのかかわりが生まれた。特に、友達とのかかわりが気付きを深めることにつながった。左図は、実際に出かけたとき、間違えて切符を買ってしまったことを、友達とのかかわりで解決できたB児の様子の見取りである。クラス全体の話し合いで気付いたことや、多摩センター駅で調べようで、駅で働く人にかかわった経験を生かして解決していくことで気付きを深めていった様子も見取れる。次のかかわりへの意欲を生み出すには、友達同士が互いに認め合い、励まし合うことが大切であると考えられる。

だが、多摩センター駅で調べようで、電車やバスについて調べたいことがあっても、緊張のあまり聞きたいことが聞けないという場面があった。子どもたちは、その前の永山図書館へ行く計画を立てようの活

動の中で、自分なりに準備したり、練習したりした(右下図)。「駅で働く人に直接聞いてみたい」という意欲が高まっているようだったが、実際の場面では進んでかかわろうとした子は少なかった。自分たちだけで駅を利用するという初めての経験の中で、児童は圧倒されてしまったようである。

このことから、進んでかかわることができるようにするためには、その対象との心理的距離を段階的に縮める工夫が必要であることが分かった。例えば、調べ活動を繰り返し行えるような学習活動を設定したり、駅で働く人の写真やビデオを見せたりすることが効果的であると思う。また、思いや願いを相手に伝えるために、友達同士で練習する活動を十分に取り入れ、自信をつけさせることも大切である。



第2学年

単元名『動物園に行こう！』

1 単元のねらい

- 動物園の探検を楽しもうとする。
- 動物園の探検に必要なものを、友達と協力して準備できる。
- 動物園の探検を通して、自分や友達のよさに気付く。

2 研究主題との関連

児 童 の 思 い や 願 い

↓ 気付きを深めるために

(1) 人とのかかわりに着目した学習活動の工夫

- 導入では、昨年の公園探検のときにしたことを話し合い、活動のきっかけとする。
- 楽しい動物園探検をするために、友達や1年生と協力する場面を多く設定する。
- 児童だけで活動する場を設定し、協力することの必要性、協力することの楽しさを感じることができるようにする。
- 気付きを確かなものにするために、探検の成果を発表する機会を設定する。

(2) 人とのかかわりに関する支援の工夫

- 生活科室の廊下に動物園の地図を常時掲示し、話し合いがスムーズにできるように声かけをする。
- 他のグループの活動状況が分かるように教室等に掲示し、活動への意欲の持続を図る。
- 探検の中で起こる様々な場面を生かし、どうしたらよいのかを話し合わせる。
- グループでの人間関係を深めるために、1・2年で遊ぶ場面を設定し、教師も一緒に遊びながらかわる。
- 1年生に自分の思いや願いを発表するように、あらかじめ伝えておく。

(3) かかわりと気付きを見取る工夫

- 自己評価カードから、児童の思いや願いをつかむようにする。
- 話し合い活動・準備活動・探検活動を通して、つぶやきや行動を観察する。
- できあがった作品を通して、気付きの深まりを見取る。

↓

気 付 き の 深 ま り

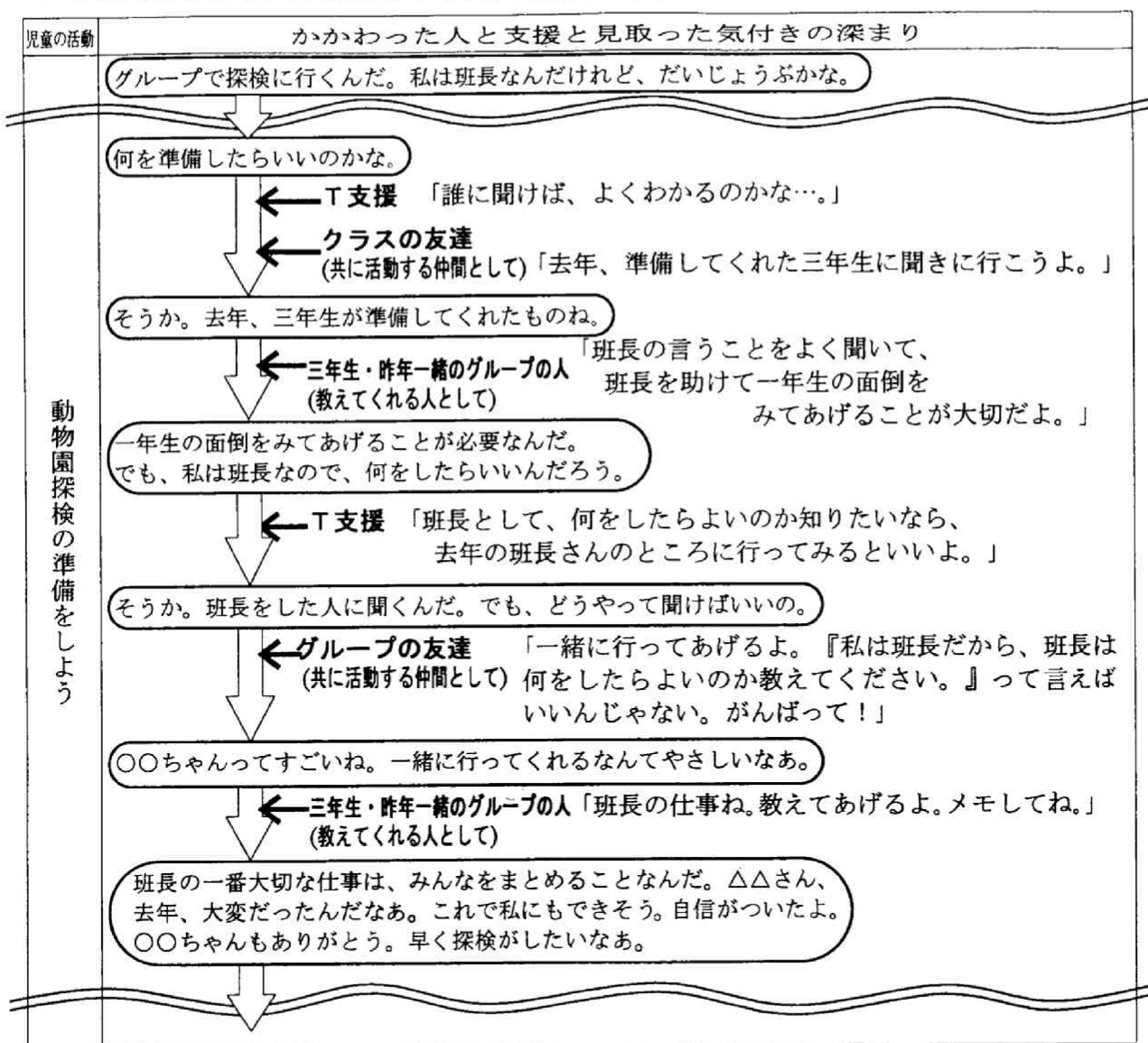
### 3 活動計画 (12時間扱い)

〈活動のきっかけ〉

(昨年の探検のまとめから) 井の頭公園の探検楽しかったね。→今年は私たちが1年生のお世話をしてあげる番だね。→楽しい探検をしたいね。→先生どこに行くの？

| 児童の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  | ★=かかわる人, ( ) =役割, △=支援, ◎=気付き                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 児童の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  | 予想される気付き                                                                                                                                                                                                 |
| <b>動物園ってどんなところかな？(1)</b><br>○ビデオを見て、自分たちが探検に行く動物園の様子を知る。<br>○動物園に行った経験を振り返り発表する。<br>○1年生と一緒に動物園の探検に行くことを知る。<br>△2年生として活動すること、1年生と上手にかかわることの大切さを伝える。<br>★ <b>クラスの友達</b> (共に活動する仲間として)                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  | ◎ここを探検したいなあ。<br>◎3年生はよくお世話してくれたよね。<br>◎荷物を持ってくれたよ。<br>◎私も1年生のお世話をしてあげるよ。<br>◎動物園探検が楽しみだね。<br>◎早く行きたいよ。                                                                                                   |
| <b>動物園探検の準備をしよう！(4)</b><br>○3年生に探検に行くときに注意すること、用意しなければいけないものを聞きに行く。<br>○楽しい探検ができるように準備する。(しおり・バッジ等)<br>○困ったときのお助けカードを作る。<br>○一緒に行ってくれる先生方に説明する。<br>○1年生と探検の準備をする。(本時)<br>△3年生に聞きたいことをきちんと決めてから質問に行くようにする。<br>△1年生に探検の内容がうまく伝えられるように練習する時間を設定する。<br>△他のグループの活動の状況が分かるように情報交換をしたり、助け合ったりする。<br>△1年生の意見をよく聞いて、決められるように声をかける。<br>△1年生と上手に相談ができるように助言する。<br>★ <b>3年生</b> (教えてくれる人として)<br>★ <b>クラスの友達</b> (共に活動する仲間として)<br>★ <b>1年生</b> (共に活動する・教えてあげる人として)<br>★ <b>先生・主事さん</b> (教えてあげる人として) |  | ◎何が必要なかな。<br>◎たくさん話し合いをしたよね。<br>◎ぼくの意見も聞いてくれたよ。<br>◎1年生のお世話、わたしにできるかな。<br>◎しおりに地図を入れるとわかりやすいね。<br>◎迷子になったときどうしたらよいか考えよう。<br>◎〇班はバッジも作っているよ。わたしたちも作ろうか。<br>◎1年生の意見を聞いてコースを作るのむずかしいね。<br>◎上手に探検できるかな。心配だな。 |
| <b>動物園探検に出かけよう！(5)</b><br>○1年生と一緒に楽しく動物園探検をする。<br>△安全の確認をし、協力することを伝える。<br>△かかわりが上手にもてるように、声をかける。<br>△班ごとに午前中の活動をきちんと確認してから、出発するよう声をかける。<br>△探検を見守り、探検がスムーズに進むように声をかける。<br>★ <b>クラスの友達</b> (共に活動する仲間として)<br>★ <b>1年生</b> (共に活動する仲間として・教えてあげる人として)                                                                                                                                                                                                                                       |  | ◎道に迷ったら、案内板を探すんだよ。<br>◎時々時計を見ないと遅れちゃうよ。<br>◎1年生に合わせてゆっくり歩いてあげよう。<br>◎いろんな動物がいるね。<br>◎〇〇ちゃんはやさしいね。                                                                                                        |
| <b>動物園のことを発表しよう！(2)</b><br>○動物園のことを、全校の前で発表するために準備をする。<br>○1年生と分担して発表に使うものを作る。<br>○楽しかった思いが伝わるように発表する。(発表は児童集会時に実施する)<br>△聞いている人がよくわかるように発表の工夫をするよう声をかける。<br>△友達と協力して、発表することを確認する。<br>★ <b>クラスの友達</b> (共に活動する仲間として)<br>★ <b>1年生</b> (共に活動する仲間として)<br>★ <b>上級生</b> (教えてあげる人として)                                                                                                                                                                                                         |  | ◎全校の前で発表するのは、はづかしい。うまくできるかな。<br>◎ぼくが文を書くから〇君は読んでね。<br>◎1年生もがんばっているね。<br>◎上級生よく聞いてくれるよ。<br>◎みんなの前で発表したらとても気持ちがいいね。                                                                                        |
| <b>次単元への発展</b><br>・駅探検に行こう！<br>・自分の歴史探検をしよう！                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  | <b>日常化</b><br>・1年生と一緒に活動しようとする。<br>・探検の準備を考える。<br>・友達と協力して活動できる。<br>・発表することが楽しいと感じる。                                                                                                                     |

#### 4 人とかかわりによる児童の気づきの深まり（A児）



動物園探検の準備をしよう

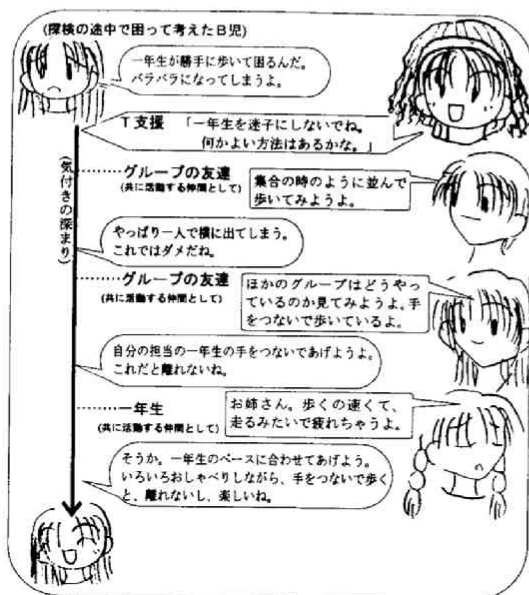
A児は、三年生とかかわりの中で気づきを深めることができた。以前から、様々な活動面で班長をしたかったA児であるが、自分に自信がないためか、友達が「やりたい。」という譲ってしまうことが多かった。今回は、ぜひやりたいという思いが強かったようである。そこで、「何をしたらよいか。」を、同じグループで班長の経験のあるM児に聞いていた。

その後、活動の中で昨年お世話になった三年生に聞きに行くことになった。ここでA児は班長としての仕事にこだわって、去年の班長に聞きに行くことにするが、どう聞いたらよいか分からず困っていた。それを見ていたM児が、声をかけ、一緒に聞いてあげることにした。

その結果、A児は班長としての仕事が分かり、自信をもって、探検をすることができた。探検後の感想では、A児は自分に自信がついたこと、M児のやさしさ、三年生への感謝の思いを挙げている。「班長としての仕事は何か。」という内容についての気づきだけでなく、自分のよさや友達のよさについても気づきを深めることができた。また、M児も感想の中で、A児ががんばったこと、A児を助けて感謝されたことを挙げている。活動後、もともと仲のよかった二人の結びつきが、さらに強くなったことを感じる。

## 5 活動を終えて

昨年の1・2年生合同の活動を思い出すということから本単元を進めた。そのため、昨年自分たちがしてもらったことに気が付き、分からないことは3年生に聞くという活動に広がっていった。その中で、1年生にしてあげることがわかり、あわせてお世話をする大変さにも気付いたようである。探検を成功させるために1年生と相談をしなくては進まない場面があったり、2年生同士で分担しなくてはいけないこともあり、自然に人とのかかわる活動が増えていった。必要観のある人とののかかわりは児童の気付きを深めることにつながったようだ。



左図は、探検の途中で気付きを深めたC児の見取りである。1年生とかかわることで、どんなお世話をしたらよいのか、お世話をするのは大変だけれど楽しい、ということに気付くことができた。準備の時間に、話し合いを十分したのであるが、実際に探検を始めると困ったことがいろいろ出てくる。探検の場所が広いので、児童だけの活動になってしまうため、自分たちの力で何とか解決をしている。この探検の後、C児は、このときお世話をした1年生と休み時間に遊んでいる姿が見られた。

探検の準備をする活動の中で、3年生とのかかわり、1年生とのかかわり、2年生同士でのかかわりをもつことができた。最初は、「どうかかわっていいか。」考えていた児童も、回数を重ねるうちに自然な姿を出せるようになってきている。

また、かかわりが遊びにも広がり、探検のまとめをする活動では、1・2年生が一緒に進んで協力をする場面が見られた。このように、人とのかかわることにおいては、日常的・継続的に活動することが大切であることがわかった。

1・2年生の合同の活動になると、2年生が1年生のお世話をするという場面が多くなってしまうが、1年生が中心になる活動と2年生が中心になる活動に分けると、いっそう、意欲的な活動が期待できる。それは、2年生の感想の中に、「1年生に、忘れていた持ち物を教えてもらってよかった。」「案内板を探してくれてうれしかった。」というものがあつたことから明らかである。お世話する立場とお世話される立場という明確な区別を付けずに、それぞれが責任を持って活動ができるようになると、お互いに相手を認め合い、気付きがより深まると考えられる。

今回の活動は、全校での縦割り班を(年間通して、同じメンバーで活動させたいので)利用したので、ひとつのグループの人数が多くなり、2年生が全体をまとめるのに大変であった。グループの人数についても、ひとりひとりが自分の役割を持って活動ができ、まとまることのできる人数を考えていきたいと思う。

本単元での反省点を生かし、さらに1・2年生合同の活動を計画していきたいと思う。



## V 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

〔気づきを深めるために〕

#### (1) 人とのかかわりに着目した学習活動の工夫

- ・児童が人とかかわる必要性を感じる学習活動を工夫することにより、児童は何のために相手とかかわるのかを意識し、思いや願いをはっきりとをもってかかわれるようになった。
- ・人とかかわる活動を取り入れることにより、児童の活動が活発になってきた。また、かかわりを繰り返すうちにかかわり方が身に付き、自ら課題解決に向けて、かかわりを求めるようになった。そして、そのことは気づきの深まりにもつながっている。
- ・人とかかわる活動を繰り返す中で、自分のよさや相手のよさに気づき、人とのかかわりを楽しむようになった。

#### (2) 人とのかかわりに関する支援の工夫

- ・支援表を作成したことにより、児童の思いや願いを共感的に受けとめることができ、人とのかかわりに関する支援が個に応じてできるようになった。
- ・自分の思いや願いを人にうまく伝えられない児童に対して、かかわりに関する技能面での支援を行うことで、児童は人と少しずつ上手にかかわれるようになってきた。

#### (3) かかわりと気づきの深まりを見取る工夫

- ・評価カードは、教師がその授業のなかで見取れなかった児童の気づきや新たな願いを見取るのに有効だった。
- ・見取り表を作成し考察することにより、どのようなかかわりと支援が気づきを深めるのに有効だったのかがわかり、次の支援に生かすことができた。

### 2 今後の課題

- ・人とのかかわりが更に継続し、日常化していくための活動計画を考えていく。
- ・支援表の有効活用を更に探っていく。
- ・気づきの深まりは一単位時間では見取りにくいので長期的に見ていく。